



キャンパス・コンソーシアム函館

合同公開講座

函館学 2023

第1回講義

講義資料

ユニバーサルな視点で考える
小さな公共交通で地域活性化

講師：佐藤 浩史

函館大学 准教授

日時：令和5年6月17日(土)

13:30~15:00

会場：函館大学

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



キャンパス・コンソーシアム函館

佐藤 浩史 (さとう ひろし)

函館大学商学部 准教授

講師略歴

- 1994年～2012年 外資系製薬企業、米国医療機器メーカーで第一線からエリアマネージャー
2006年 北海学園大学大学院経営学研究科修士課程修了
2012年 札幌大谷大学社会学部専任講師（文科審査・マーケティング）
2014年 北海学園大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学
2017年 大正大学地域創生学部専任講師（文科審査・経営組織論）
2020年 函館大学専任講師
2023年 函館大学准教授

学会・各種委員会活動

- 日本経営学会、経営哲学学会、経営行動研究学会
日本アダプティッド体育・スポーツ学会
札幌市スポーツ局障がい者スポーツ普及促進会議・委員
日本障がい者スポーツ指導者協議会・研修部委員
札幌市障がい者スポーツ指導者協議会・会長

1. 地域活性化と公共交通にかかると問題意識

少子・高齢化により、地域の活力が失われています。地域を維持・存続させるのは、その地域に暮らす住民の社会的・経済的活動によってなっています。社会一般的にも特に地方において住民の転出増加と転入減少によるアンバランスな現状が続いています。

地域住民の暮らしの満足・不満足は、地域の活力に直結します。モータリゼーションの進展により、わが国の地方で日常生活に必要な買い物や余暇活動の場が手の届く範囲にない場合でも自家用車で移動し目的を充足することができます。しかしながら、このような手段を持たない住民は、生活や日常の愉しみを享受し満足を得られているのでしょうか。満足が得られている場合では、その地域に住み続けることができるし、不満足な場合は、その地域を離れ満足を得られる便利な地域へ転出します。地域が活力を失うメカニズムがシンプルに見えてきます。

なぜ、満足を得ることができないのか、一つの要因が公共交通の問題であることは、わが国の地方を活性化させるための情報から一般的にも知らされる機会を得ますが、私たちの地元函館においても、この課題により地域の小さな人口流出、活力の減衰が身近であります。再考してみる機会が必要ではないでしょうか。

さらに、満足が得られていない住民において、転出の機会を得られる場合と得られない場合も想定できます。満足・不満足と可能・不可能など 2 項対立的な視点で解決できるのかという課題も含め持続可能的に居住できる環境の検討から、とらえ方と手法について改めての検討も必要でしょう。

このひとつの方法がユニバーサルな視点、これを踏まえ予めなにをするのか決めておくこととしての戦略をどのように方向付ければよいのか、戦略論の領域からシナリオ・プランニングの手法で試論してみます。都市間移動のような大きな交通ではなく、地域住民の日常生活を支える小さな交通によって、住民は、どのように満足するのかという課題を問題意識として設置し、小さな公共交通について環境を配慮しつつ地域の交通の課題を解決できる糸口としての EV 車両を使った社会実装について情報提供します。

具体的には、函館西部地区を対象して 2022 年度函館市において社会実装がおこなわれたグリーンスローモビリティ事業とこれをサポートするために提出された学生のアイデア小型 EV による買い物支援サービスについて公共交通の可能性と将来的なシナリオを検討していきます。

2.地域の現状整理

〈わが国一般に知らされる公共交通の現状把握と函館市の公共交通の現状〉

①公共交通の課題

国交省 H30 報告

- ・少子化で通学のニーズは減少する
- ・一方、高齢者のニーズは高まる
- ・地方では、外出率の減少が顕著
- ・高齢者の自動車事故率が増加
- ・公共交通が減り、自動車運転もできないとなると移動の不安が増える
- ・バス事業者の労務状況が良くないことから公共交通が減る

②函館バスプレスリリース

- ・函館市東部地区（旧戸井、恵山、楸法華、南茅部）の路線の維持困難
- ・函館市総合計画から公共交通の現状

③函館大学佐藤ゼミによる函館市西部地区聞き取り調査の提示

3.課題解決に導く方法論

VUCA といわれる現代は、唯一最善な解決方法の探索は難しく、多様であるがゆえに選択肢を多く持つ手法が必要でしょう。社会的・経済的な環境は、技術の著しい進歩により変化が激しく速く、ゆえに確実性を担保する時間が間に合わず不確実であり、市場などには多様なステークホルダーが存在するように複雑で人間のニーズとウォンツは曖昧であるという時代において、現状分析や見通しをたて、どのように執行するのか支援の手法が重要です。現在から未来をみて、課題を解決し求める結果を得ようとする場合、地域住民など誰もがわかりやすいビジョンが必要です。このビジョンを現実のものとするためには、これを支援してくれるシナリオ・プランニングが利用できます。これを簡易的ではありませんが参考にして現状を分析していきます。

シナリオ・プランニングは、中・長期的な将来予想を描き、検討していく資料を提出する戦略策定のツールです。シナリオ・プランニングは、VUCA に対応するために、時間軸と地域軸を利用し、実践で使える設計図を描くことができます。

また、地域に暮らす生活者は、多様であり、現代ではこのようなユニバーサルな地域運営が求められています。ユニバーサルな視点をシナリオ・プラン作成に込め函館市西部地区の公共交通の方向性を検討していきます。

4.現状整理からユニバーサルな視点によるシナリオ・プランニングとまとめ

地域の政策、民間事業者、地域住民の現状整理から、ユニバーサルな視点を踏まえシナリオ・プランを示します。地域住民の新しい足として社会実装が行われたグリーンスローモビリティと地域の大学生がチャレンジした環境配慮型地域住民支援策を検討します。

これらを踏まえ、地域公共交通の将来についてのまとめをします。地域の公共交通が住民から持続的な満足を得るためにはユニバーサルな視点で将来予測をすること。戦略的な視点を複数準備して都度、修正や変更しながら地域の住民満足を得て持続可能な地域を維持、存続していくことの可能性を示して今後も継続して取り組む必要性についてまとめます。

以上